

---

## 神庭通信

(かにわ つうしん)



平成28年度 校長室だより

第5号 H28. 8. 22

---



さる7月26日未明に、相模原市にある障害者施設「津久井やまゆり園」で、痛ましく許しがたい事件が起きました。被害にあい亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆さまに心よりお悔やみを申し上げます。また、負傷された方々の一日も早い回復を願っております。

事件を聞いて、本当に悲しい思いになりました。どんなことがあっても、わたしたちは一人

ひとりかけがえのない存在ですし、人は障害者である前に一人の人間であり一つの人格です。

学校では子どもたちの成長を心から願い、日々の指導場面や学校生活に全力で向き合っています。そして元気な声や笑顔があふれる中、子どもたちは着実に成長しています。子どもたちのこうした姿を見るたびに、私たち教職員は勇気や元気、幸せをたくさん受け取っています。子どもたちは人としての優しさやいのちの大切さを教えてくれます。一人ひとりの輝くいのちは宝物です。わたしたちがお互いに思いやる心を持つことこそが、一人ひとりの人権を尊重することにつながり、すべての人の幸せにつながります。子どもたちは、それを多くの人に伝える力を持っています。そしてこのことを学校の中だけでなく、一人でも多くの人に伝えたい、それによって共に生きる社会に一步ずつ近づいていけると信じて、私たちは取り組んでいます。

だれもが安心して暮らしていくことができるよう、安全対策にはいっそう力を入れてまいります。また障害についての理解を深める機会や、交流及び共同学習の場の拡大と充実を図り、お互いが支えあって生きる共生社会の実現に向けて、歩みを止めることなく、皆さまとともに力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

---

この夏のオリンピックでは、世界のアスリートの活躍する姿、日本選手の活躍する姿を見たり聞いたりした人も多いと思います。テレビだけでなく、インターネットでも見ることができ、見逃した話題のシーンなどを調べることもできました。今回のオリンピックでは、ふだんの練習を信じることで発揮できる力がいかに大きいものであるか、また日ごろの努力でつけた自信が、持っている力を出し切る大きな原動力になっていることを強く感じました。学校の教育活動でも「本番」というような展開が計画されます。いつもの学習によって力をつけ、その積み上げが自信になり、その自信が「本番」で力を発揮することにつながるというのを、オリンピックを見ながら思い出していました。

スポーツということでは中原養護学校でも陸上、バレーボール、水泳など様々なスポーツに打ち込み、がんばっている生徒たちがたくさんいます。またパラリンピック種目である「ボ

ッチャ」については研修会を実施し、授業でも扱っています。

中原養護学校卒業生には、過去ボッチャのユース大会に出場した生徒たちもいます。実はこの7月末に具志堅幸司氏とボッチャの魅力についてステージで語るイベントが県民ホールでありました。具志堅氏はロサンゼルスオリンピックでの体操の金メダリストで、2名の卒業生は大きな舞台上がって緊張もしたと思いますが、実に堂々と、すてきなトークを繰り広げてくれました。事前にしっかりと準備をし、練習もし、その上で本番のステージに上がったわけですが、「本番」では臨機応変な対応もでき、絶妙の応答も展開した落ち着きぶりに、具志堅氏から「さすがアスリートだね」とお褒めの言葉をいただきました。

夏季休業中にはPTA夏祭りや夏余暇、部活動、教員の研修会など、夏季休業中ならではの取り組みもたくさんありました。参加して下さった地域の皆さま、ボランティアとして関わって下さった皆さま、ダンスや読み聞かせなどで交流できた住吉高校や向ヶ丘工業高校の高校生の皆さま、地域等であたたかく受け入れて下さっている皆さま、そして保護者の皆さまに感謝申し上げます。

まだ暑い日が続いていますが、2学期に向けて体調管理に気をつけてお過ごしください。元気で始業式を迎えられることを楽しみにしています。